

障害福祉サービス提供事業所等調査

和歌山県全域集計結果

1. 訪問看護

県全域集計

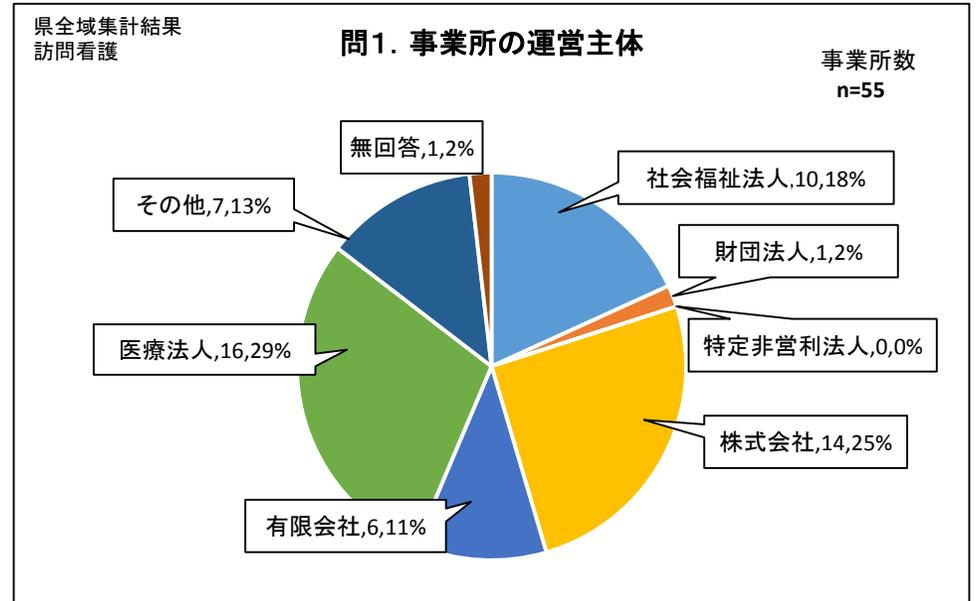
1. 訪問看護

配布数	(有効)回答数	(有効)回答率
99	55	55.6%

問1	運営主体	「医療法人」29%、「株式会社」25%、「社会福祉法人」18%、「有限会社」11%。
問2	所在地	「和歌山圏域」36%、「西牟婁圏域」16%、「那賀・海草圏域」13%、「伊都・有田圏域」7%、「日高圏域」6%、「東牟婁圏域」2%。
問3	職員体制	「1～5人」40%、「6～10人」31%、「11～15人」16%、「16～20人」9%、「26人以上」4%。
問4	重症心身障害児者、医療的ケアの必要な障害児者へのサービス提供の可否	「利用は可能」69%、「利用はできない」31%。
問5	サービス提供可能な時間帯	「日中」97.4%、「夜間」23.7%、「早朝」18.4%、「深夜」13.2%。日中以外の時間帯のサービス提供もある。
問6	サービス提供可能な年齢層	「40～64歳」100%、「18～39歳」97.4%、「7～17歳」73.7%、「1～6歳」63.2%、「0歳」50%。
問7	提供可能な医療的ケア	「服薬管理」100%、「口腔・鼻腔吸引」「酸素投与」「パルスオキシメーター」「吸入」各97.4%、「気管内吸引」「気管切開部の管理」各94.7%。
問8	医療的ケアが必要な方の年齢層(現在)	現在訪問している年齢の中心は「40～64歳」42%。未就学児の訪問は「0歳」5.0%、「1～6歳」10.9%。
問8	医療的ケアが必要な方の年齢層(過去)	過去訪問していた年齢の中心は「40～64歳」36.4%。未就学児の訪問は「0歳」12.1%、「1～6歳」22.7%。
問9	提供している医療的ケア内容(18歳未満)	「パルスオキシメーター」20%が最も多く、「口腔・鼻腔吸引」18.4%、「胃ろう」11.2%の順になっている。「中心静脈カテーテル・カテーテルポート・留置カテーテル」の利用者はいなかった。
問9	提供している医療的ケア内容(18歳以上)	「パルスオキシメーター」27.7%が最も多く、「口腔・鼻腔吸引」10.6%、「胃ろう」9.8%の順になっている。中心静脈カテーテルの利用者はいなかった。
問10	超重症児・準超重症児(18歳未満)	「超重症児」62.5%、「準超重症児」37.5%。
問10	超重症児・準超重症児(18歳以上)	「超重症児」73.3%、「準超重症児」26.7%。
問11	医療的ケアが必要な方の利用についての課題	「看護師の確保が困難」が65.5%、「希望の時間が重なり対応できない」が41.4%、「保護者が求めるサービス提供が困難」が37.9%。
問12	医療的ケアが必要な方が利用できない理由	「医療的ケアの障害児者の看護経験がない」が93.8%、「医療的ケアが必要な障害児者を対象としていない」が62.5%、「入浴介助等訪問看護単独では困難」が31.3%が主な理由。
問13	重症心身障害児者へサービスを提供ができるようにするための必要な対策	「急変時のバックアップ」79.6%、「人員の増加」68.5%、「小児看護・重心看護の研修」「在宅訪問診療医の増加」各63%などより、医療体制のバックアップ体制の整備と、専門知識・技術の習得機会をすすめていく必要がある。
問14-①	災害対策マニュアルの定期的な見直し	「行っている」47%、「行っていない」31%、「マニュアルがない」9%、「作成中」11%。半数近くが見直しを行っているが、3割は見直しを行っていない。
問14-②	被災時に備蓄を説明しているもの	「薬」60%、「衛生材料」58%と一般の被災備蓄品にはないものの指導が目立つ。次いで、「食料」「注入食」「非常用発電機」各46%となっている。
問15-①	喀痰吸引等三号研修依頼の有無	「研修依頼がある」27%、「無い」73%と依頼は少ない状況。
問15-②	喀痰吸引等三号研修指導依頼を受けているか	依頼があると答えた事業所のうち依頼を受けている」73.3%、「受けていない」26.7%。
問15-③	喀痰吸引等三号研修指導依頼を受けていない理由	「指導者研修を受けていないので不安」50%、「人員不足」「その他」各25%。
問16	医療的ケアの必要な方が安心して生活するための改善点	「圏域内に緊急時に対応可能な医療機関の確保」が75.9%、「看護師確保の報酬基準を改善」「圏域内に在宅支援機能を備えた施設の整備」各64.8%。
傾向と評価		運営主体は医療法人が多い。所在地は紀北に比べ紀南地域が少ない傾向にある。小規模事業所が多い。約7割の事業所は医療的ケアの障害児者を受け入れることができる。サービス提供時間は9割が日中のみの提供となっている。訪問対象は就学～成人が全体の8割強。未就学、0歳児への訪問は全体の2割に満たない。医療的ケアの利用者対応の課題として訪問看護ステーションの慢性的な人員不足、利用時間の希望の重なり、重症心身障害の個別的なケア対応、保護者も含めサポートが必要となることが考えられる。3号研修に関しては依頼された事業所は3割と少ない。その中で受けているのが7割。指導者研修の未受講、人員不足があげられる。圏域の改善点として、緊急時の医療体制の整備が最も多く、看護師確保、そして福祉も含めたトータルサポートの医療福祉施設の整備をすることが求められる。

問1. 事業所の運営主体

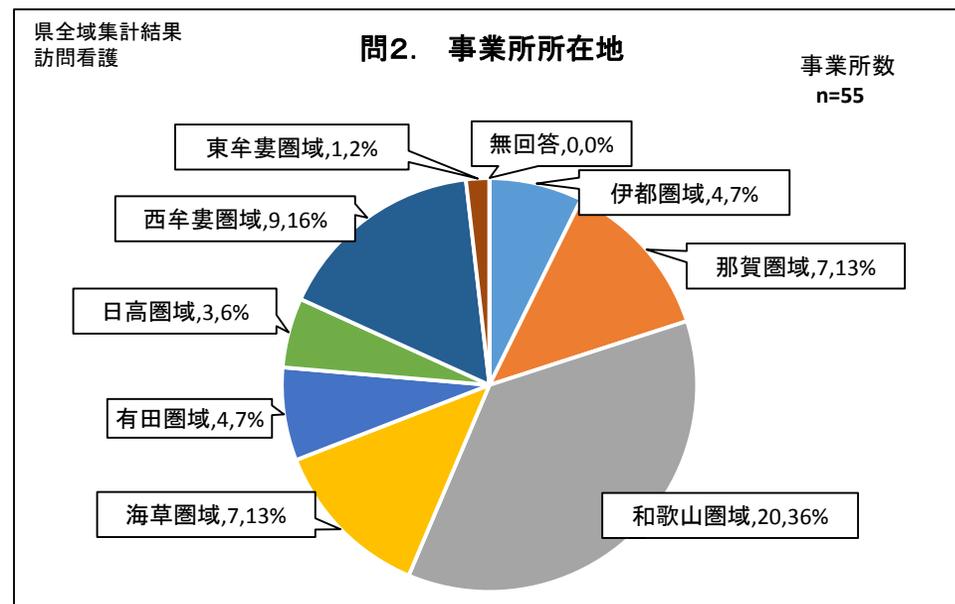
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
社会福祉法人	1	2	2	1	1	0	2	1	10	18.2%
財団法人	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.8%
特定非営利法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
株式会社	2	3	6	0	1	0	2	0	14	25.5%
有限会社	0	1	2	1	0	0	2	0	6	10.9%
医療法人	0	1	7	3	1	3	1	0	16	29.1%
その他	1	0	3	2	1	0	0	0	7	12.7%
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.8%
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	100.0%



問1	運営主体	「医療法人」29%、「株式会社」25%、「社会福祉法人」18%、「有限会社」11%。
----	------	--

問2. 事業所所在地

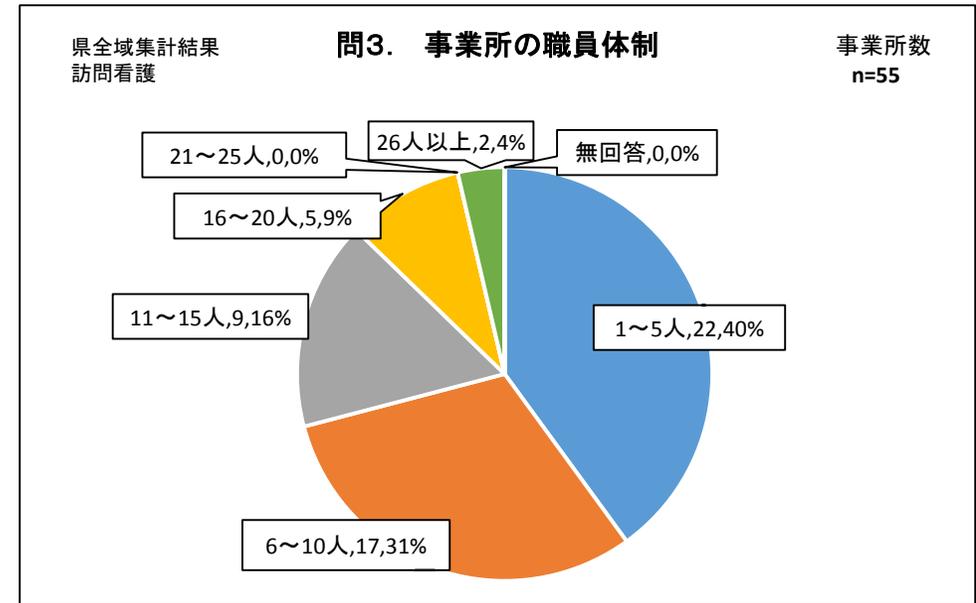
所在地	事業所数	%
伊都圏域	4	7.3%
那賀圏域	7	12.7%
和歌山圏域	20	36.4%
海草圏域	7	12.7%
有田圏域	4	7.3%
日高圏域	3	5.5%
西牟婁圏域	9	16.4%
東牟婁圏域	1	1.8%
無回答	0	0.0%
事業所数合計	55	100.0%



問2	所在地	「和歌山圏域」36%、「西牟婁圏域」16%、「那賀・海草圏域」13%、「伊都・有田圏域」7%、「日高圏域」6%、「東牟婁圏域」2%。
----	-----	--

問3. 事業所の職員体制

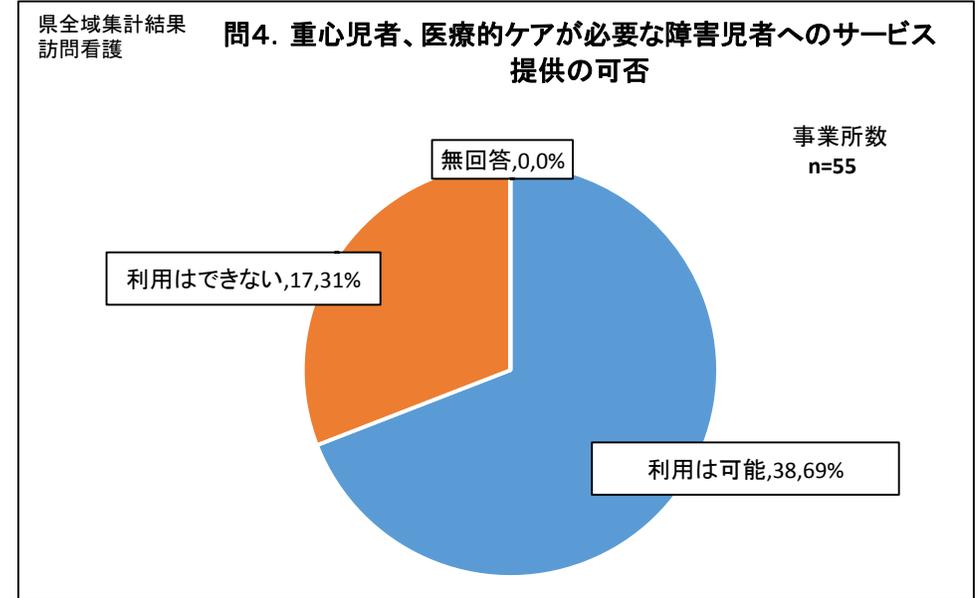
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
1～5人	2	3	8	4	1	0	3	1	22	40.0%
6～10人	2	3	7	2	1	0	2	0	17	30.9%
11～15人	0	0	4	1	2	2	0	0	9	16.4%
16～20人	0	1	0	0	0	0	4	0	5	9.1%
21～25人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
26人以上	0	0	1	0	0	1	0	0	2	3.6%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	100.0%



問3	職員体制	「1～5人」40%、「6～10人」31%、「11～15人」16%、「16～20人」9%、「26人以上」4%。
----	------	--

問4. 重症心身障害児者、医療的ケアが必要な障害児者へのサービス提供の可否

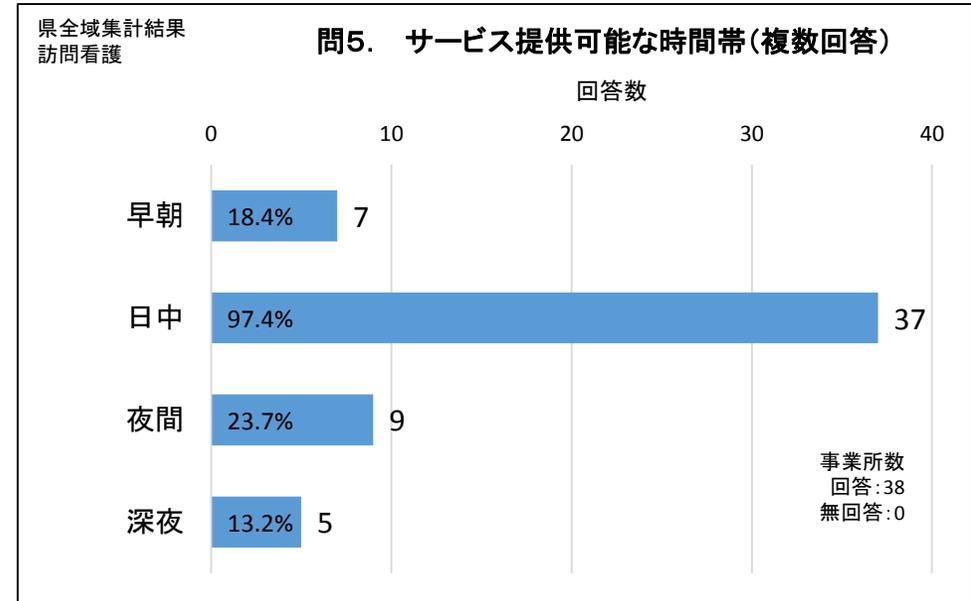
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
利用は可能	2	7	11	4	2	3	8	1	38	69.1%
利用はできない	2	0	9	3	2	0	1	0	17	30.9%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	100.0%



問4	重症心身障害児者、医療的ケアが必要な障害児者へのサービス提供の可否	「利用は可能」が69%、「利用はできない」が31%。
----	-----------------------------------	----------------------------

問5. サービス提供可能な時間帯(複数回答)

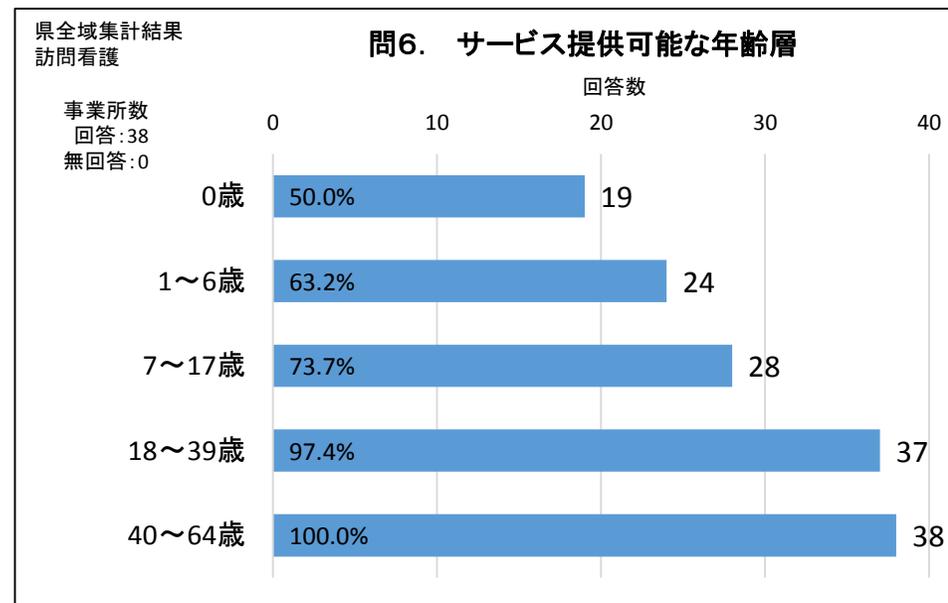
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
早朝	1	2	1	1	0	0	2	0	7	18.4%
日中	2	7	11	4	2	3	7	1	37	97.4%
夜間	1	2	2	1	0	0	3	0	9	23.7%
深夜	1	1	1	1	0	0	1	0	5	13.2%
回答事業所数	2	7	11	4	2	3	8	1	38	
無回答事業所数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問5	サービス提供可能な時間帯	「日中」97.4%、「夜間」23.7%、「早朝」18.4%、「深夜」13.2%。日中以外の時間帯のサービス提供もある。
----	--------------	---

問6. サービス提供可能な年齢層(複数回答)

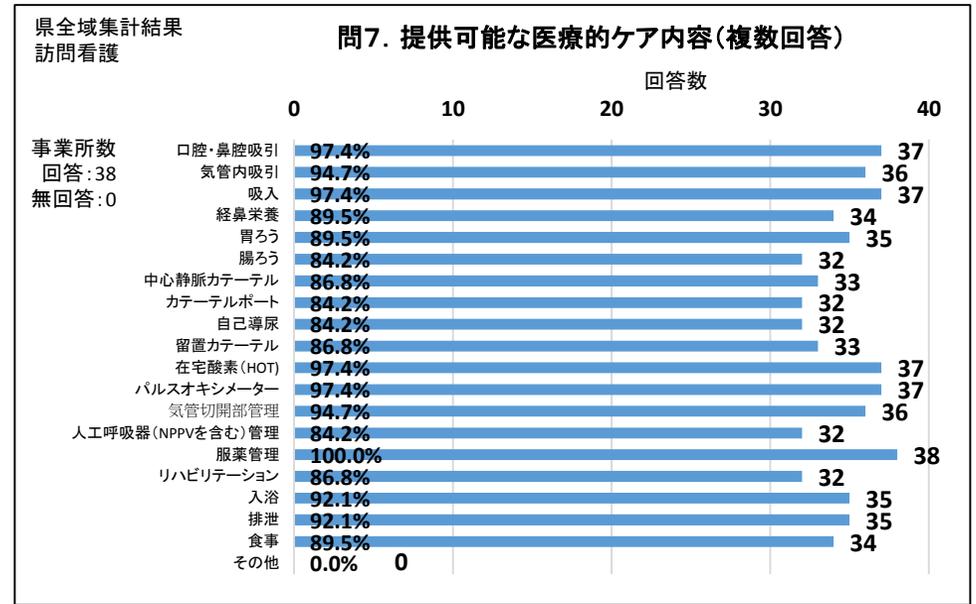
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
0歳	1	1	6	2	1	3	4	1	19	50.0%
1～6歳	2	3	6	3	2	3	4	1	24	63.2%
7～17歳	2	5	7	3	2	3	5	1	28	73.7%
18～39歳	2	7	10	4	2	3	8	1	37	97.4%
40～64歳	2	7	11	4	2	3	8	1	38	100.0%
回答事業所数	2	7	11	4	2	3	8	1	38	
無回答事業所数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問6	サービス提供可能な年齢層	「40～64歳」100%、「18～39歳」97.4%、「7～17歳」73.7%、「1～6歳」63.2%、「0歳」50%。
----	--------------	--

問7. 提供可能なケア内容をお答えください(複数回答)

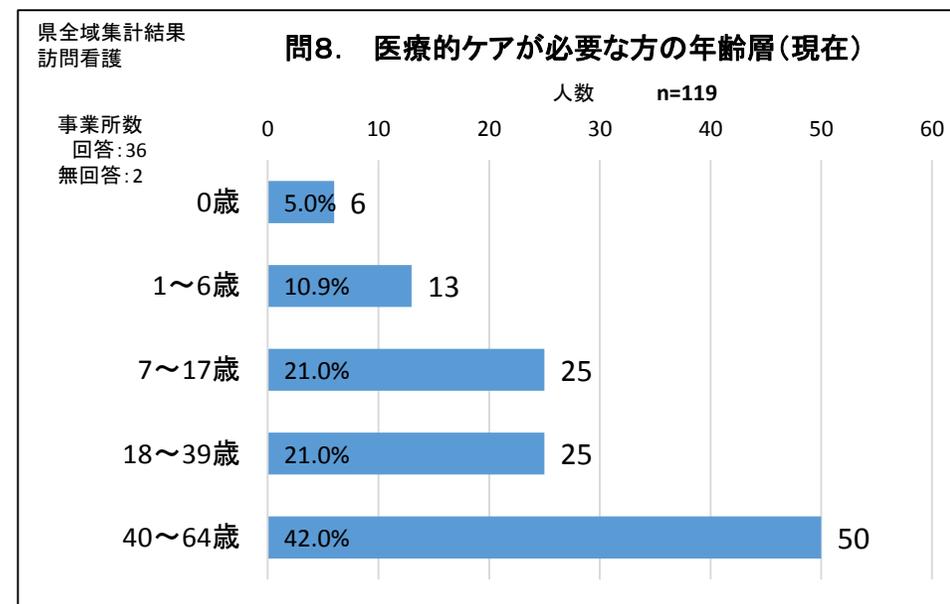
		伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
吸引	口腔・鼻腔吸引	2	7	10	4	2	3	8	1	37	97.4%
	気管内吸引	2	7	9	4	2	3	8	1	36	94.7%
吸入		2	7	10	4	2	3	8	1	37	97.4%
経管栄養	経鼻栄養	2	7	9	4	2	3	6	1	34	89.5%
	胃ろう	2	7	10	4	2	3	6	1	35	89.5%
	腸ろう	2	7	9	4	1	3	5	1	32	84.2%
中心静脈 栄養	中心静脈カテーテル	2	7	9	4	2	3	5	1	33	86.8%
	カテーテルポート	2	7	9	4	1	3	5	1	32	84.2%
導尿	自己導尿	2	7	8	4	2	3	5	1	32	84.2%
	留置カテーテル	2	7	9	4	2	3	5	1	33	86.8%
	在宅酸素(HOT)	2	7	10	4	2	3	8	1	37	97.4%
	パルスオキシメーター	2	7	10	4	2	3	8	1	37	97.4%
	気管切開部管理	2	7	9	4	2	3	8	1	36	94.7%
	人工呼吸器(NPPVを含む)管理	2	6	8	4	2	3	6	1	32	84.2%
	服薬管理	2	7	11	4	2	3	8	1	38	100.0%
	リハビリテーション	2	6	10	2	1	2	8	1	32	86.8%
	入浴	2	7	10	4	2	3	6	1	35	92.1%
	排泄	2	7	10	4	2	3	6	1	35	92.1%
	食事	2	7	9	4	2	3	6	1	34	89.5%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	回答事業所数		2	7	11	4	2	3	8	1	38
無回答事業所数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業所数合計		2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問7	提供可能な医療的ケア	「服薬管理」100%、「口腔・鼻腔吸引」「酸素投与」「パルスオキシメーター」「吸入」各97.4%、「気管内吸引」「気管切開部の管理」各94.7%。
----	------------	---

問8. 医療的ケアが必要な方の年齢層別利用者数(現在)

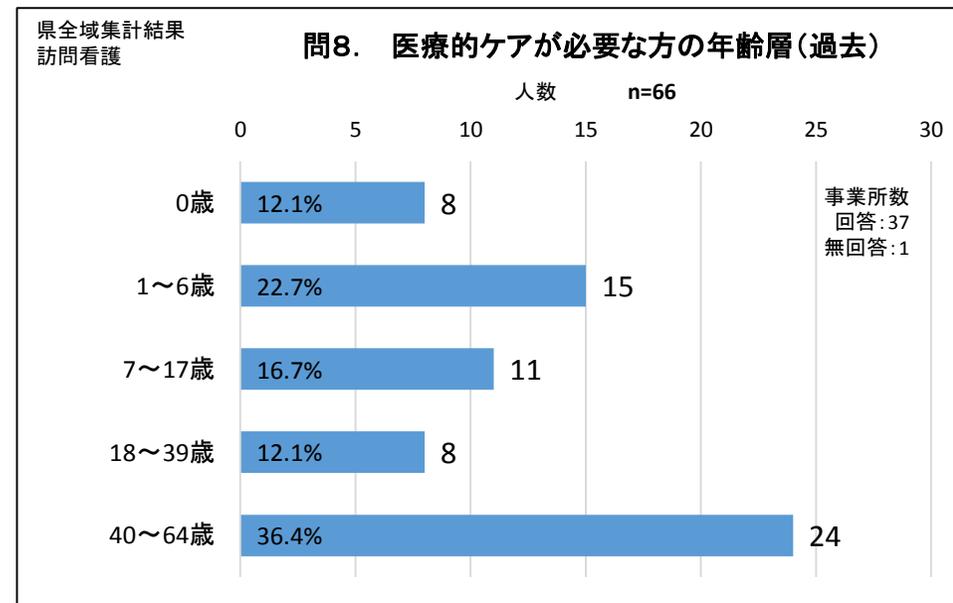
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
0歳	0	1	5	0	0	0	0	0	6	5.0%
1～6歳	2	1	7	1	0	0	1	1	13	10.9%
7～17歳	1	6	14	2	0	1	1	0	25	21.0%
18～39歳	0	4	12	1	1	0	7	0	25	21.0%
40～64歳	0	9	16	6	0	1	17	1	50	42.0%
合計人数	3	21	54	10	1	2	26	2	119	100.0%
回答事業所数	2	6	11	4	2	2	8	1	36	
無回答事業所数	0	1	0	0	0	1	0	0	2	
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問8	医療的ケアが必要な方の年齢層 (現在)	現在訪問している年齢の中心は「40～64歳」42%。未就学児の訪問は「0歳」5.0%、「1～6歳」10.9%。
----	------------------------	---

問8. 医療的ケアが必要な方の年齢層別利用者数(過去)

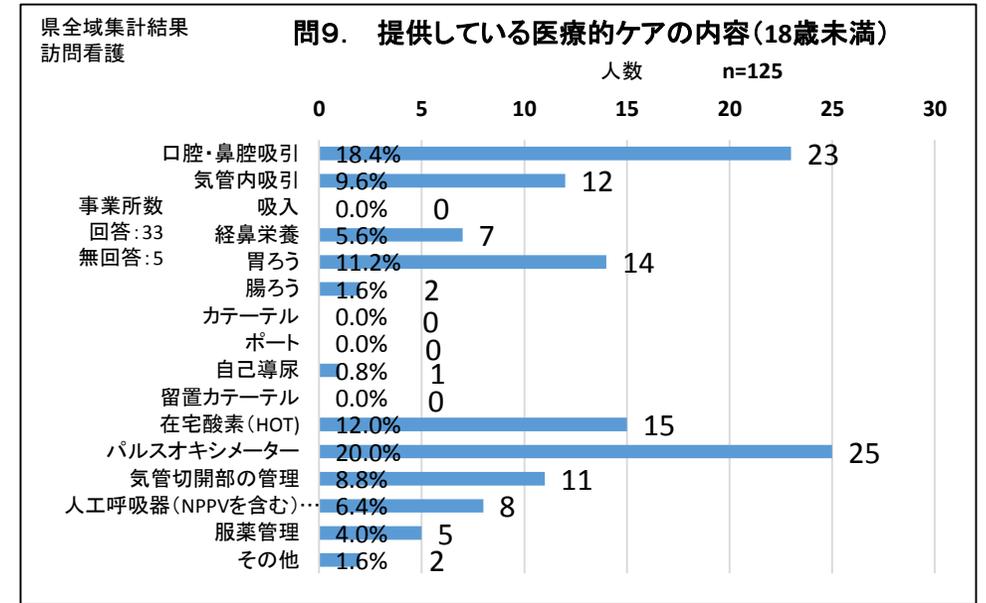
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
0歳	1	0	1	1	2	1	2	0	8	12.1%
1～6歳	0	3	2	2	1	3	4	0	15	22.7%
7～17歳	2	2	0	2	2	0	3	0	11	16.7%
18～39歳	0	2	2	0	1	0	3	0	8	12.1%
40～64歳	0	14	8	1	0	0	1	0	24	36.4%
合計人数	3	21	13	6	6	4	13	0	66	100.0%
回答事業所数	2	6	11	4	2	3	8	1	37	
無回答事業所数	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問8	医療的ケアが必要な方の年齢層(過去)	過去訪問していた年齢の中心は「40～64歳」36.4%。未就学児の訪問は「0歳」12.1%、「1～6歳」22.7%。
----	--------------------	--

問9. 現在利用されている医療的ケアが必要な利用者に対し提供しているサービス内容と利用者数
 ※圏域事業所の合計人数(18歳未満)

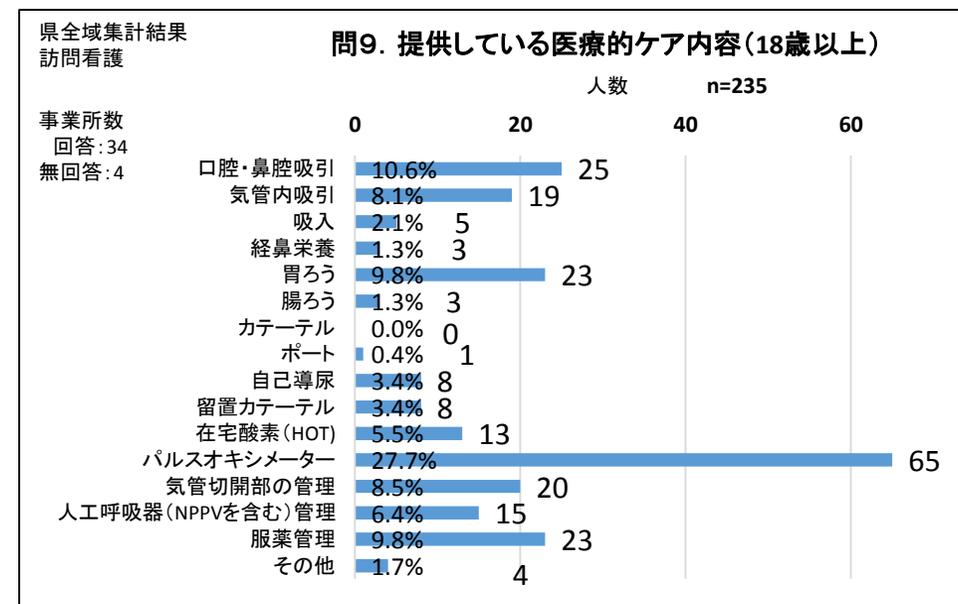
		伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
吸引	口腔・鼻腔吸引	3	5	10	3	0	1	1	0	23	18.4%
	気管内吸引	2	2	5	2	0	1	0	0	12	9.6%
	吸入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
経管栄養	経鼻栄養	0	3	3	0	0	1	0	0	7	5.6%
	胃ろう	3	2	5	3	0	0	1	0	14	11.2%
	腸ろう	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1.6%
中心静脈 栄養	カテーテル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	ポート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
導尿	自己導尿	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
	留置カテーテル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数 回答:33 無回答:5	在宅酸素(HOT)	0	3	7	2	0	1	1	1	15	12.0%
	パルスオキシメーター	3	4	12	3	0	1	1	1	25	20.0%
	気管切開部の管理	2	2	4	2	0	1	0	0	11	8.8%
	人工呼吸器(NPPVを 含む)管理	1	1	3	2	0	1	0	0	8	6.4%
	服薬管理	2	0	2	0	0	0	0	1	5	4.0%
	その他	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1.6%
	合計人数	18	23	52	18	0	7	4	3	125	100.0%
	回答事業所数	2	7	10	4	0	1	8	1	33	
無回答事業所数	0	0	1	0	2	2	0	0	5		
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38		



問9 提供している医療的ケアの内容(18歳未満) 「パルスオキシメーター」20%が最も多く、「口腔・鼻腔吸引」18.4%、「胃ろう」11.2%の順になっている。「中心静脈カテーテル・カテーテルポート・留置カテーテル」の利用者はいなかった。

問9. 現在利用されている医療的ケアが必要な利用者に対し提供しているサービス内容と利用者数
 ※圏域事業所の合計人数(18歳以上)

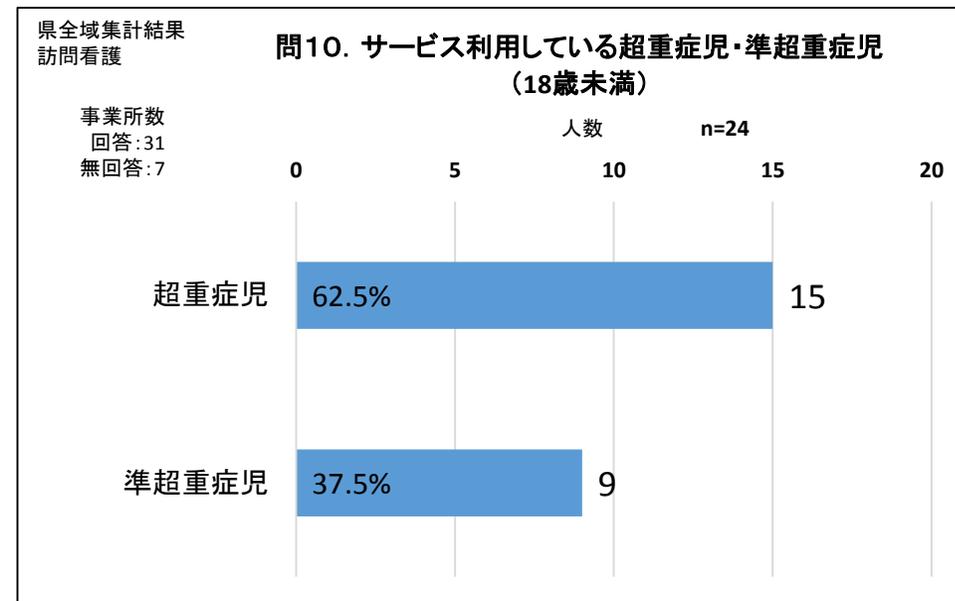
		伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
吸引	口腔・鼻腔吸引	1	2	9	7	1	0	4	1	25	10.6%
	気管内吸引	0	1	7	5	1	0	4	1	19	8.1%
	吸入	0	0	0	0	0	0	5	0	5	2.1%
経管栄養	経鼻栄養	0	0	0	2	0	0	1	0	3	1.3%
	胃ろう	1	2	11	6	1	0	1	1	23	9.8%
	腸ろう	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1.3%
中心静脈 栄養	カテーテル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	ポート	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%
導尿	自己導尿	0	1	2	4	0	0	1	0	8	3.4%
	留置カテーテル	0	0	5	2	0	0	1	0	8	3.4%
	在宅酸素(HOT)	0	0	6	2	1	1	2	1	13	5.5%
	パルスオキシメーター	1	6	29	7	1	1	19	1	65	27.7%
	気管切開部の管理	1	0	8	5	1	0	4	1	20	8.5%
	人工呼吸器(NPPVを 含む)管理	1	0	6	3	1	0	4	0	15	6.4%
	服薬管理	0	4	5	6	0	0	7	1	23	9.8%
	その他	0	0	0	0	0	1	3	0	4	1.7%
	合計人数	5	16	89	49	7	3	59	7	235	100.0%
	回答事業所数	2	7	10	4	1	1	8	1	34	
無回答事業所数	0	0	1	0	1	2	0	0	4		
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38		



問9	提供している医療的ケアの内容 (18歳以上)	「パルスオキシメーター」27.7%が最も多く、「口腔・鼻腔吸引」10.6%、「胃ろう」9.8%の順になっている。中心静脈カテーテルの利用者はいなかった。
----	---------------------------	--

問10. サービスを利用している超重症児・準超重症児の方の人数
(18歳未満)

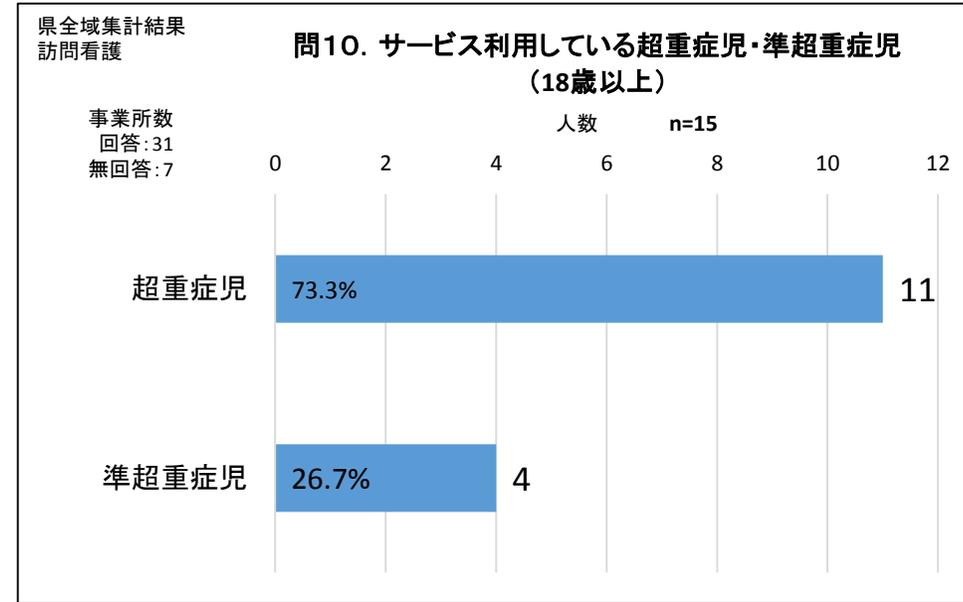
	県全域合計	%
超重症児	15	62.5%
準超重症児	9	37.5%
合計人数	24	100.0%
回答事業所	31	
無回答事業所	7	
事業所数合計	38	



問10	超重症児・準超重症児(18歳未満)	「超重症児」62.5%、「準超重症児」37.5%。
-----	-------------------	---------------------------

問10. サービスを利用している超重症児・準超重症児の方の人数
(18歳以上)

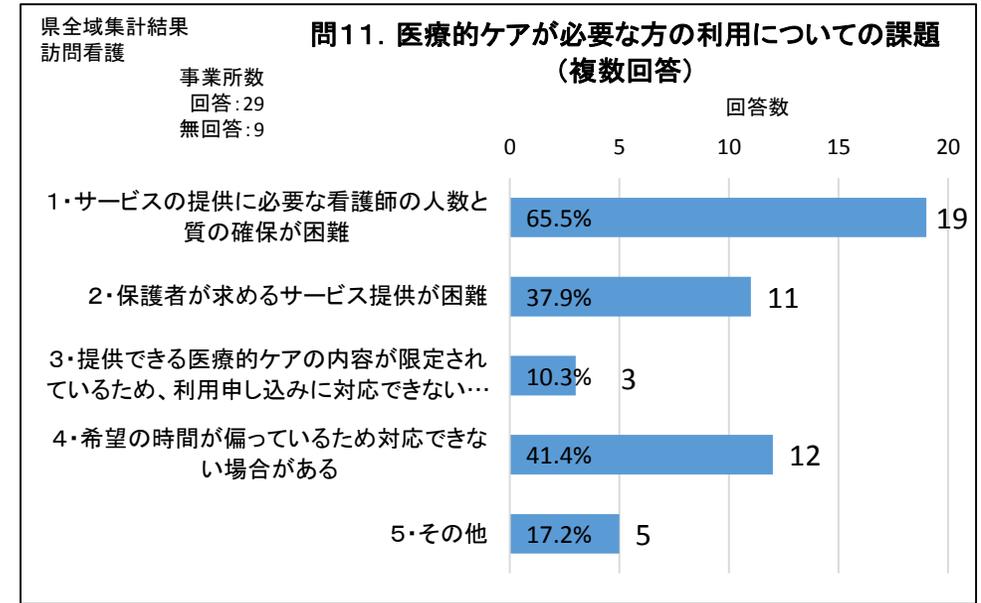
	県全域合計	%
超重症児	11	73.3%
準超重症児	4	26.7%
合計人数	15	100.0%
回答事業所	31	
無回答事業所	7	
事業所数合計	38	



問10	超重症児・準超重症児(18歳以上)	「超重症児」73.3%、「準超重症児」26.7%。
-----	-------------------	---------------------------

問11. 医療的ケアが必要な方の利用について課題となっている内容(複数回答)

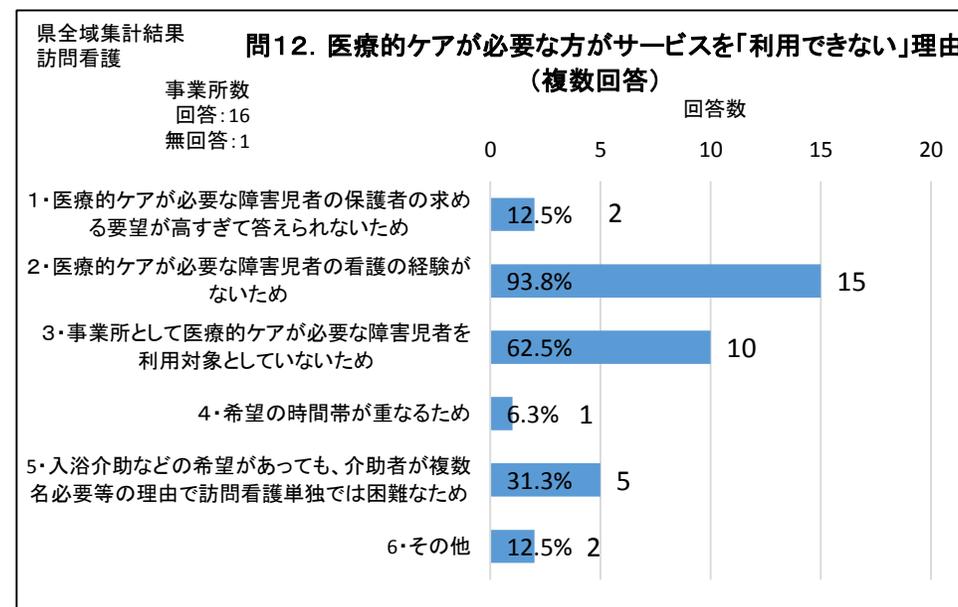
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
1. サービスの提供に必要な看護師の人数と質の確保が困難	0	4	8	1	1	0	4	1	19	65.5%
2. 保護者が求めるサービス提供が困難	0	4	4	0	0	1	1	1	11	37.9%
3. 提供できる医療的ケアの内容が限定されているため、利用申し込みに対応できない場合がある	0	1	1	0	0	0	1	0	3	10.3%
4. 希望の時間が偏っているため対応できない場合がある	0	4	5	0	0	2	1	0	12	41.4%
5. その他	0	1	1	1	1	0	1	0	5	17.2%
回答事業所数	0	6	10	3	2	2	5	1	29	
無回答事業所数	2	1	1	1	0	1	3	0	9	
事業所数合計	2	7	11	4	2	3	8	1	38	



問11	医療的ケアが必要な方の利用についての課題	「看護師の確保が困難」が65.5%、「希望の時間が重なり対応できない」が41.4%、「保護者が求めるサービス提供が困難」が37.9%。
-----	----------------------	---

問12. 医療的ケアが必要な方がサービスを「利用できない」理由(複数回答)

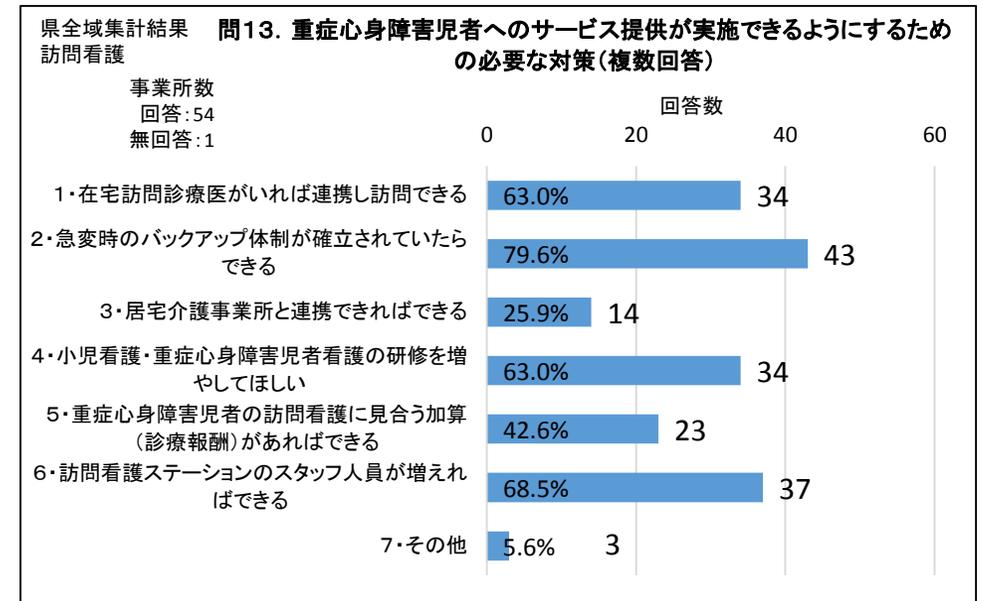
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
1. 医療的ケアが必要な障害児者の保護者の求める要望が高すぎて答えられないため	0	0	2	0	0	0	0	0	2	12.5%
2. 医療的ケアが必要な障害児者の看護の経験がないため	2	0	8	3	1	0	1	0	15	93.8%
3. 事業所として医療的ケアが必要な障害児者を利用対象としていないため	0	0	8	1	1	0	0	0	10	62.5%
4. 希望の時間帯が重なるため	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6.3%
5. 入浴介助などの希望があっても、介助者が複数名必要等の理由で訪問看護単独では困難なため	0	0	2	2	0	0	1	0	5	31.3%
6. その他	0	0	1	1	0	0	0	0	2	12.5%
回答事業所数	2	0	9	3	1	0	1	0	16	
無回答事業所数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
事業所数合計	2	0	9	3	2	0	1	0	17	



問12	医療的ケアが必要な方が利用できない理由	「医療的ケアの障害児者の看護経験がない」が93.8%、「医療的ケアが必要な障害児者を対象としていない」が62.5% 「入浴介助等訪問看護単独では困難」が31.3%が主な理由。
-----	---------------------	--

問13. 重症心身障害児者へのサービス提供を多くの訪問看護ステーションが実施できるようにするための必要な対策（複数回答）

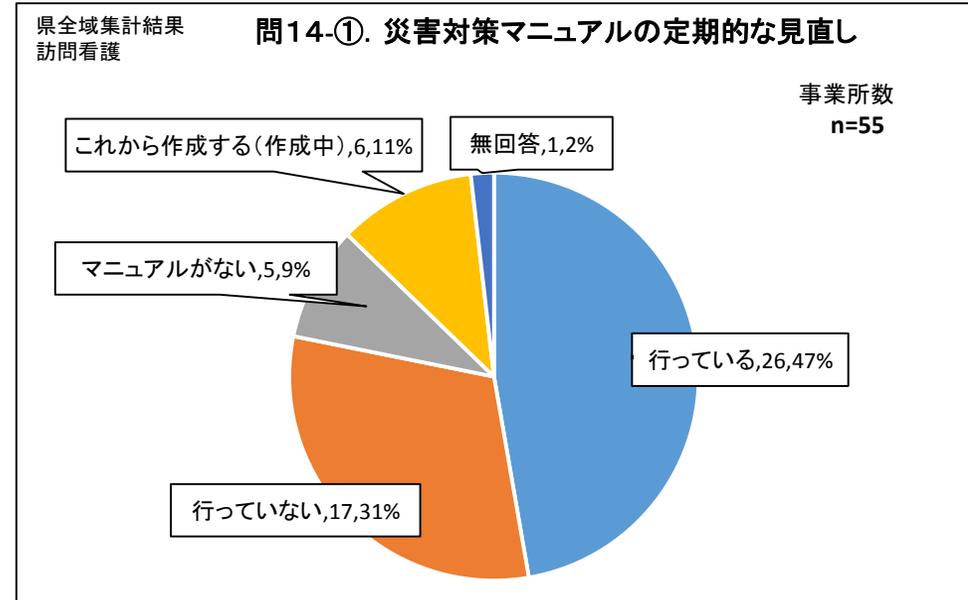
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域合計	%
1. 在宅訪問診療医がいれば連携し訪問できる	2	4	12	5	2	2	6	1	34	63.0%
2. 急変時のバックアップ体制が確立されていたらできる	2	7	15	7	2	2	7	1	43	79.6%
3. 居宅介護事業所と連携できればできる	1	1	7	2	0	1	2	0	14	25.9%
4. 小児看護・重症心身障害児者看護の研修を増やしてほしい	3	6	11	4	2	2	5	1	34	63.0%
5. 重症心身障害児者の訪問看護に見合う加算（診療報酬）があればできる	2	4	9	2	2	0	3	1	23	42.6%
6. 訪問看護ステーションのスタッフ人員が増えればできる	3	4	14	6	3	1	6	0	37	68.5%
7. その他	0	1	2	0	0	0	0	0	3	5.6%
回答事業所数	4	7	20	7	3	3	9	1	54	
無回答事業所数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	



問13	重症心身障害児者へサービス提供ができるようにするための必要な対策	「急変時のバックアップ」79.6%、「人員の増加」68.5%、「小児看護・重心看護の研修」「在宅訪問診療医の増加」各63%などより、医療体制のバックアップ体制の整備と、専門知識・技術の習得機会をすすめていく必要がある。
-----	----------------------------------	---

問14-①. 事業所の「災害対策マニュアル」の定期的な見直しについて

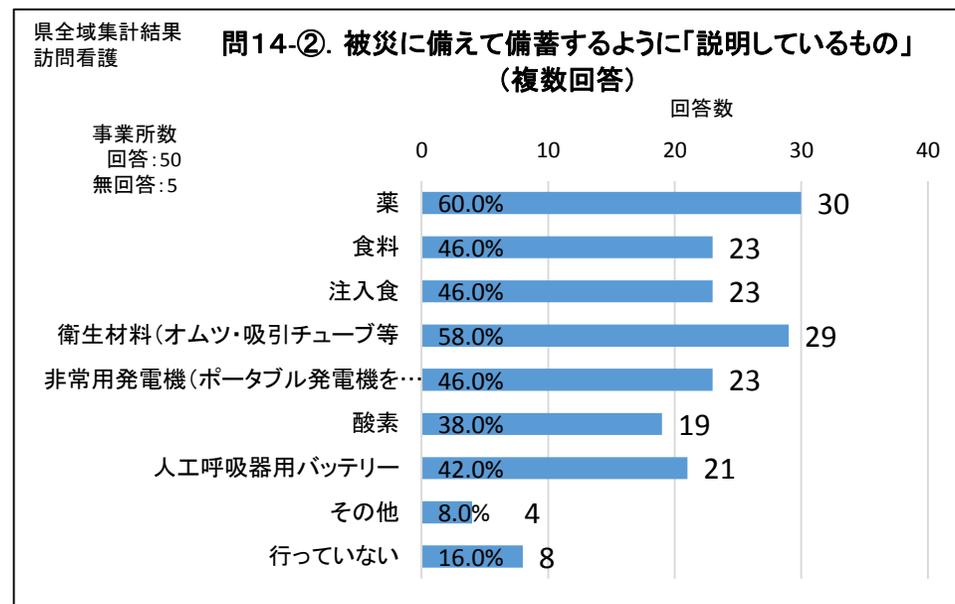
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
行っている	2	5	11	1	2	0	4	1	26	47.3%
行っていない	2	1	4	4	1	2	3	0	17	30.9%
マニュアルがない	0	1	3	1	0	0	0	0	5	9.1%
これから作成する (作成中)	0	0	2	1	0	1	2	0	6	10.9%
無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.8%
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	100.0%



問14-①	災害対策マニュアルの定期的な見直し	「行っている」47%、「行っていない」31%、「マニュアルがない」9%、「作成中」11%。半数近くは見直しを行っているが、3割は見直しを行っていない。
-------	-------------------	---

問14-②. 利用者が被災されたときに備え備蓄するよう「説明しているもの」(複数回答)

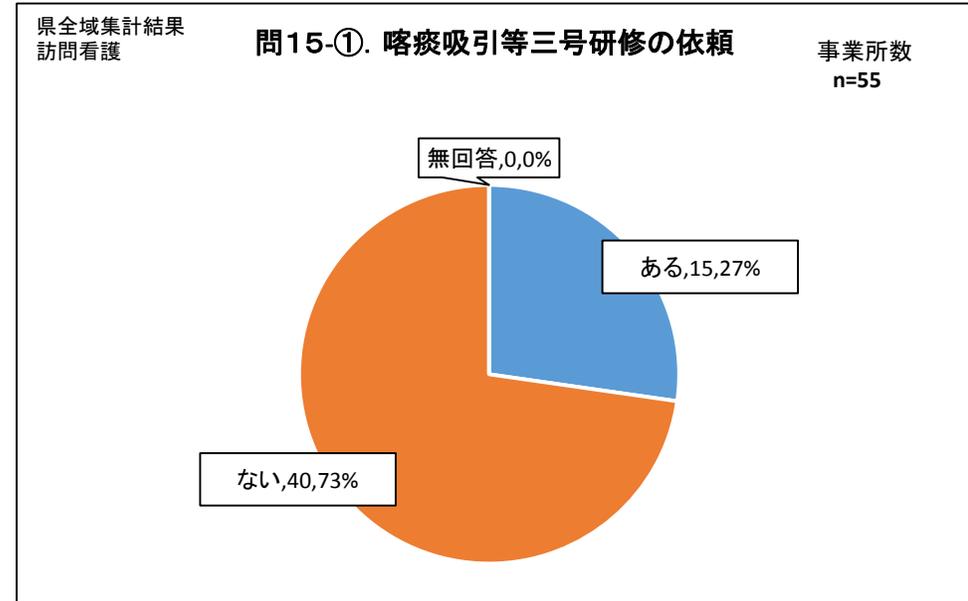
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域合計	%
薬	2	1	12	3	4	1	6	1	30	60.0%
食料	2	2	11	1	2	1	3	1	23	46.0%
注入食	2	2	6	3	3	1	5	1	23	46.0%
衛生材料(オムツ・吸引チューブ等)	2	3	11	2	3	1	6	1	29	58.0%
非常用発電機(ポータブル発電機を含む)	3	1	6	3	3	2	4	1	23	46.0%
酸素	1	2	4	5	1	2	3	1	19	38.0%
人工呼吸器用バッテリー	2	1	7	5	3	1	2	0	21	42.0%
その他	0	0	1	1	1	1	0	0	4	8.0%
行っていない	1	1	4	0	0	1	1	0	8	16.0%
回答事業所数	4	5	18	7	4	3	8	1	50	
無回答事業所数	0	2	2	0	0	0	1	0	5	
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	



問14-②	被災時用に備蓄を説明しているもの	「薬」60%、「衛生材料」58%と一般の被災備蓄品にはないものの指導が目立つ。次いで、「食料」「注入食」「非常用発電機」各46%となっている。
-------	------------------	---

問15-①. 喀痰吸引等三号研修(特定の者対象)の指導依頼がありますか

	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
ある	1	4	5	2	1	0	2	0	15	27.3%
ない	3	3	15	5	3	3	7	1	40	72.7%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	100.0%



問15-① 喀痰吸引等三号研修依頼の有無 「研修依頼がある」27%、「無い」73%と依頼は少ない状況。

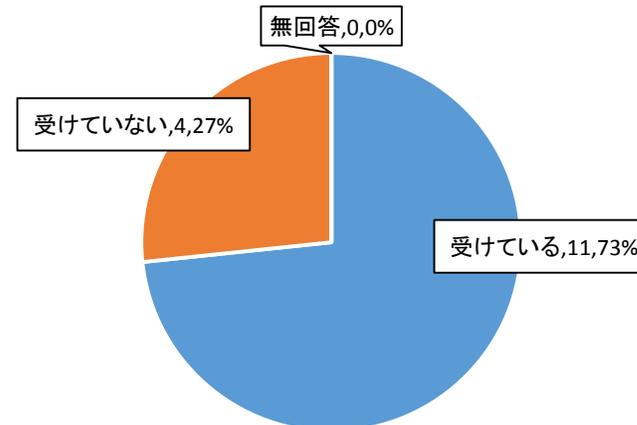
問15-②. 喀痰吸引等三号研修(特定の者対象)の指導の依頼があった場合受けているか

	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
受けている	0	2	5	2	1	0	1	0	11	73.3%
受けていない	1	2	0	0	0	0	1	0	4	26.7%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数合計	1	4	5	2	1	0	2	0	15	100.0%

県全域集計結果
訪問看護

問15-②. 喀痰吸引等三号研修の指導依頼を受けているか

事業所数
n=15



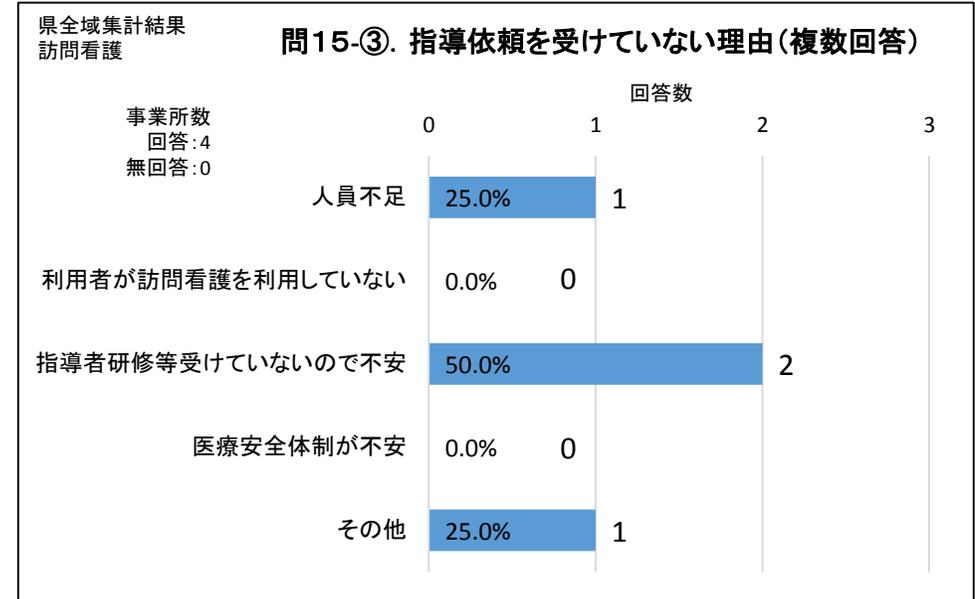
問15-②

喀痰吸引等三号研修指導依頼を受けているか

依頼があると答えた事業所のうち依頼を「受けている」73.3%、「受けていない」26.7%。

問15-②. 喀痰吸引等三号研修(特定の者対象)指導依頼を受けていない理由(複数回答)

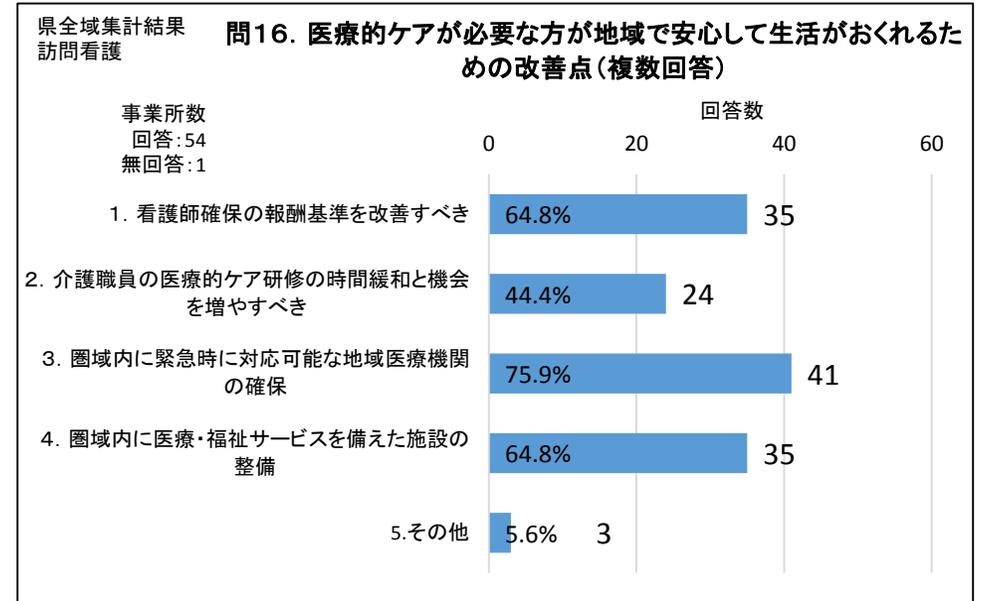
	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
人員不足	0	1	0	0	0	0	0	0	1	25.0%
利用者が訪問看護を利用していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
指導者研修等を受けていないので不安	1	0	0	0	0	0	1	0	2	50.0%
医療安全体制が不安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	1	25.0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
事業所数合計	1	2	0	0	0	0	1	0	4	100.0%



問15-③ 喀痰吸引三号研修の指導依頼を受けていない理由「指導者研修を受けていないので不安」50%、「人員不足」「その他」各25%。

問16. 医療的ケアが必要な障害児者の方々が地域で安心して生活を送れるようにするために
 どのような点を改善する必要がありますか(複数回答)

	伊都	那賀	和歌山	海草	有田	日高	西牟婁	東牟婁	県全域 合計	%
1. 医療的ケアに従事する看護師を 安定的に確保できるよう報酬基準等 を改善すべき	0	6	15	4	2	1	6	1	35	64.8%
2. 医療的ケアができる介護職員が 増えるよう、介護職員の医療的ケア 研修の研修時間の緩和、研修機会を 増やすべき	1	3	9	6	2	0	3	0	24	44.4%
3. 一定の圏域内に緊急時に対応可 能な地域医療機関を確保すべき	3	7	16	5	2	0	7	1	41	75.9%
4. 圏域内に医療・訪問看護・通園事 業・居宅介護・短期入所・移動支援・ 相談支援等の機能を備えた施設の 整備をすべき	2	5	12	4	3	2	6	1	35	64.8%
5. その他	0	0	1	0	0	1	1	0	3	5.6%
回答事業所数	4	7	19	7	4	3	9	1	54	
無回答事業所数	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
事業所数合計	4	7	20	7	4	3	9	1	55	



問16	医療的ケアが必要な方が安心して生活するための改善点	「圏域内に緊急時に対応可能な医療機関の確保」が75.9%、「看護師確保の報酬基準を改善」「圏域内に在宅支援機能を備えた施設の整備」各64.8%。
-----	---------------------------	--

傾向と評価	運営主体は医療法人が多い。所在地は紀北に比べ紀南地域が少ない傾向にある。小規模事業所が多い。約7割の事業所は医療的ケアの障害児者を受け入れることができる。サービス提供時間は9割が日中のみの提供となっている。訪問対象は就学～成人が全体の8割強。未就学、0歳児への訪問は全体の2割に満たない。医療的ケアの利用者対応の課題として訪問看護ステーションの慢性的な人員不足、利用時間の希望の重なり、重症心身障害の個別的なケア対応、保護者も含めサポートが必要となることが考えられる。3号研修に関しては依頼された事業所は3割と少ない。その中で受けているのが7割。指導者研修の未受講、人員不足があげられる。圏域の改善点として、緊急時の医療体制の整備が最も多く、看護師確保、そして福祉も含めたトータルサポートの医療福祉施設の整備をすることが求められる。
-------	--